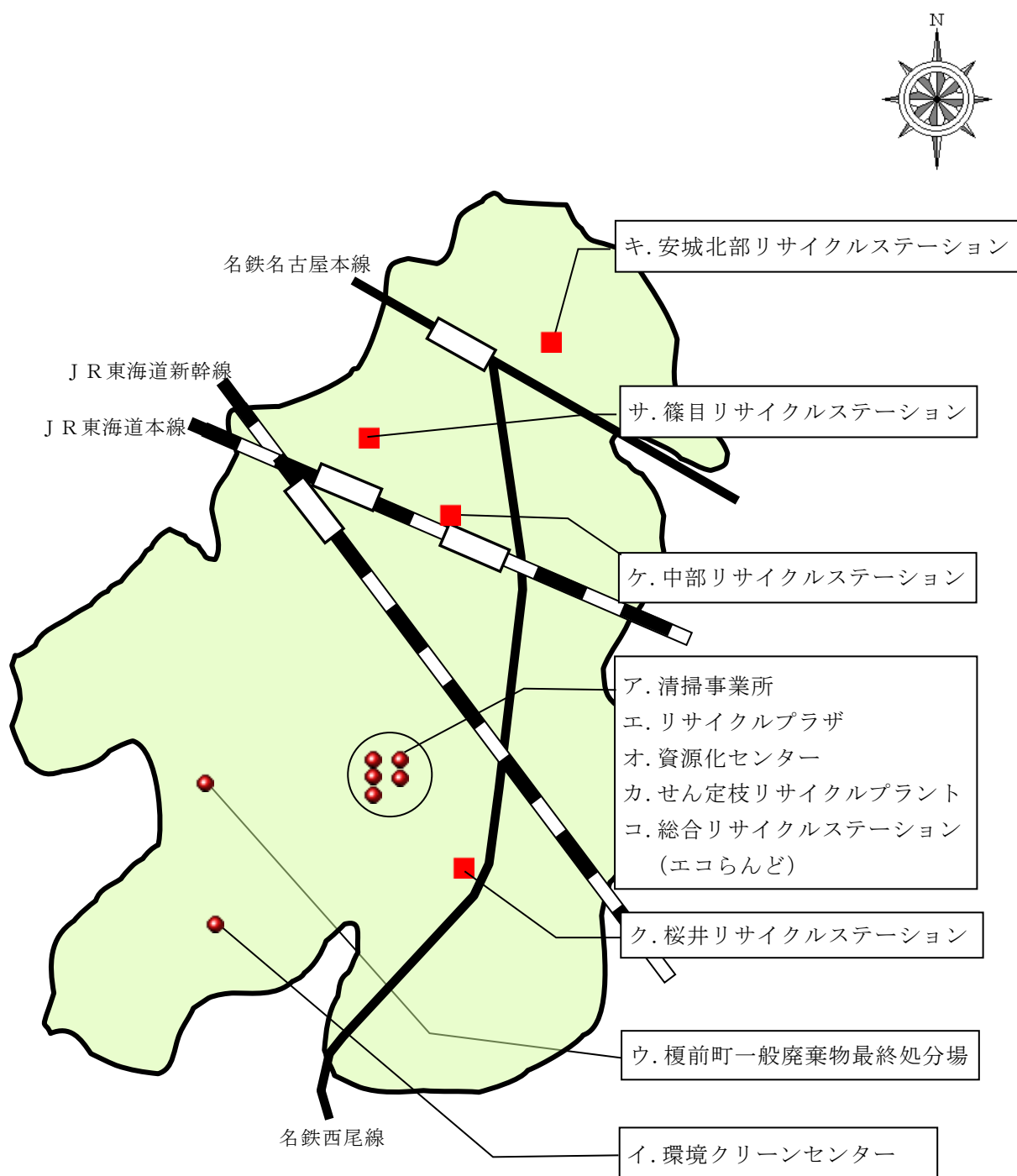


4 清掃施設・リサイクル施設

(1) 施設の所在地等

ア	清掃事業所	堀内町西新田2番地	(TEL76-3053)
	敷地面積 6,472㎡	延床面積 1,315㎡	(FAX77-1318)
イ	環境クリーンセンター	和泉町大下38番地	(TEL92-0178)
	敷地面積 48,573㎡	延床面積 15,455㎡	(FAX92-0405)
ウ	榎前町一般廃棄物最終処分場	榎前町宮下地内	
	敷地面積 29,098㎡	埋立容量 80,200㎡	
		延床面積 96㎡	
エ	リサイクルプラザ	赤松町乙菊18番地	(TEL76-3053)
	敷地面積 10,273㎡	延床面積 3,135㎡	(FAX77-1318)
オ	資源化センター	堀内町西新田2番地	(TEL76-3053)
	敷地面積 (清掃事業所に含む)	延床面積 971㎡	(FAX77-1318)
カ	せん定枝リサイクルプラント	赤松町東向111番地2	(TEL77-4185)
	敷地面積 4,813㎡	延床面積 1,469㎡	(FAX77-4185)
キ	安城北部リサイクルステーション	東栄町5丁目7番地12	
	敷地面積 476㎡	コンテナ数 3基	
ク	桜井リサイクルステーション	桜井町貝戸尻21番地	
	敷地面積 289㎡	コンテナ数 3基	
ケ	中部リサイクルステーション	大東町1番	
	敷地面積 433㎡	コンテナ数 3基	
コ	総合リサイクルステーション (エコらんど)	赤松町東向111番地1	
	敷地面積 3,246㎡	コンテナ数 21基	
サ	篠目リサイクルステーション	篠目町本郷7番地1	
	敷地面積 1,149㎡	コンテナ数 8基	

(2) 施設地図



(3) 主要施設写真

○清掃事業所



○リサイクルプラザ



○せん定枝リサイクルプラント



○資源化センター



○環境クリーンセンター（ごみ焼却施設）



○環境クリーンセンター（し尿処理施設）



(4) 施設の概要

ア リサイクルプラザ（ごみ中間処理施設）

施設規模 〔 処理能力 〕 58.2t/日	不燃ごみ・粗大ごみ破碎施設	43.0t/日（5h）
	再生施設	0.2t/日（5h）
	びん類選別施設	9.0t/日（5h）
	缶類選別施設	6.0t/日（5h）
竣工時期	平成10年7月6日	
工事施工業者	極東開発工業株式会社	

(ア) 不燃ごみ・粗大ごみ破碎施設

不燃ごみ、再生不能な粗大ごみを低速回転式破碎機、高速回転式破碎機の順で破碎処理し、磁選機、粒度選別機、風力選別機、アルミ選別機により鉄類、不燃残さ、可燃残さ、アルミニウムに選別します。

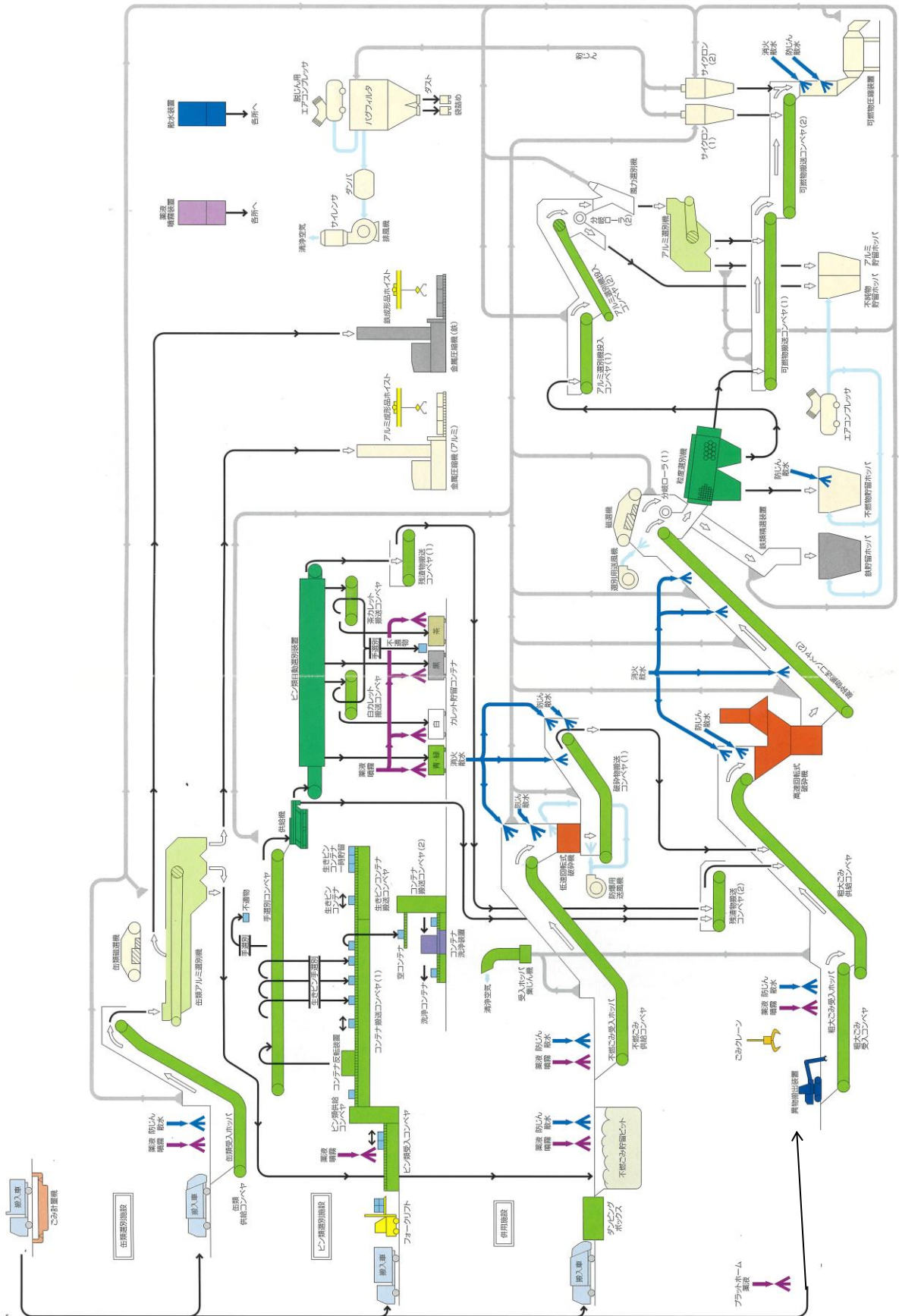
(イ) びん類選別施設

搬入されたびんは、かごととコンテナ搬送コンベヤに乗せ、最初に生きびんを手選別します。その後、他のびんはびん類自動選別装置及び手選別により白、茶、青・緑、その他の4種類に選別します。純度（重量%）はそれぞれ98%以上（白）、95%以上（茶）、90%以上（青・緑、その他）を基準とします。

(ウ) 缶類選別施設

缶類磁選機、缶類アルミ選別機により鉄類、アルミ類をそれぞれ純度99%以上で選別し、金属圧縮機によりプレス後、業者へ搬出します。

【基本処理フローシート】



イ 環境クリーンセンター（ごみ焼却施設）

処 理 方 式	全連続燃焼式機械炉（廃熱ボイラー付）
処 理 能 力	240t/日(24h)（120t/日(24h)×2基）
竣 工 時 期	平成9年3月20日
工 事 施 工 業 者	株式会社荏原製作所

（ア）ごみの流れ

収集されたごみは車ごと計量機に乗り、重さを計量します。その後、プラットホームからごみピットへ投入されます。ピット内に投入されたごみは、ごみクレーンを用いて攪拌し、ホッパへ投入されます。ホッパへ投入されたごみは、給じん装置にて焼却炉に定量的に送られ、乾燥ストーカ、燃焼ストーカ上をゆっくり反転しながら乾燥、焼却され灰となり、さらに後燃焼ストーカにて完全焼却され排出されます。焼却灰は、各シュートからの落じん（細かな灰）と共に灰押出機にて冷却、脱水され、灰コンベヤ、灰分散機にて灰ピットに送られます。灰ピット内の焼却灰は、灰クレーンにて運搬車に積み込まれ、埋立又は再資源化処理を行う施設へ搬出されます。

機械類は集中制御方式による中央管理システムと高度なプラントを容易に操作できるように様々な自動制御装置を採用しているため、省力化と安全な運転管理ができます。

（イ）臭気対策

ごみピット内から発生する臭気は、押込送風機から燃焼用空気予熱器にて加熱後、燃焼用空気として焼却炉内に送られます。また、プラットホームはエアカーテン、扉等で外部と遮断し臭気が外に漏れない構造となっています。

（ウ）燃焼ガス対策

焼却炉で完全燃焼した排ガスは、廃熱ボイラー、エコノマイザーで蒸気を作りながら200℃まで冷却されガス冷却塔に送られます。ガス冷却塔に送られた排ガスは、160℃まで冷却され、噴霧された消石灰により塩化水素等の有毒ガスを除去した後、バグフィルターに送られ飛灰等の除去を行います。バグフィルターによって除去された飛灰等は、ダスト固化装置に送られキレート、セメントと共に固められ、焼却灰と共に埋立処理を行います。さらに飛灰等の除去を行った排ガスは、排ガス再加熱器で200℃まで加熱し、触媒脱硝塔にてアンモニアを噴霧し、窒素酸化物を除去すると共に触媒によりダイオキシン類を分解したあと煙突から排出されます。

（エ）污水対策

ごみピットの污水は、焼却炉内に噴霧して酸化処理し、工場内污水は、凝集沈殿と砂ろ過により処理し、再利用します。ほかの有機污水は、し尿処理施設に送り高度処理を行い放流します。

（オ）余熱利用

廃熱ボイラーから発生した蒸気は、タービンを回して発電（出力2,150kW/h）や隣接のマーメイドパレスの給湯、室内の冷暖房や温水プールの加熱に利用するなど、熱エネルギーの有効利用を図っています。

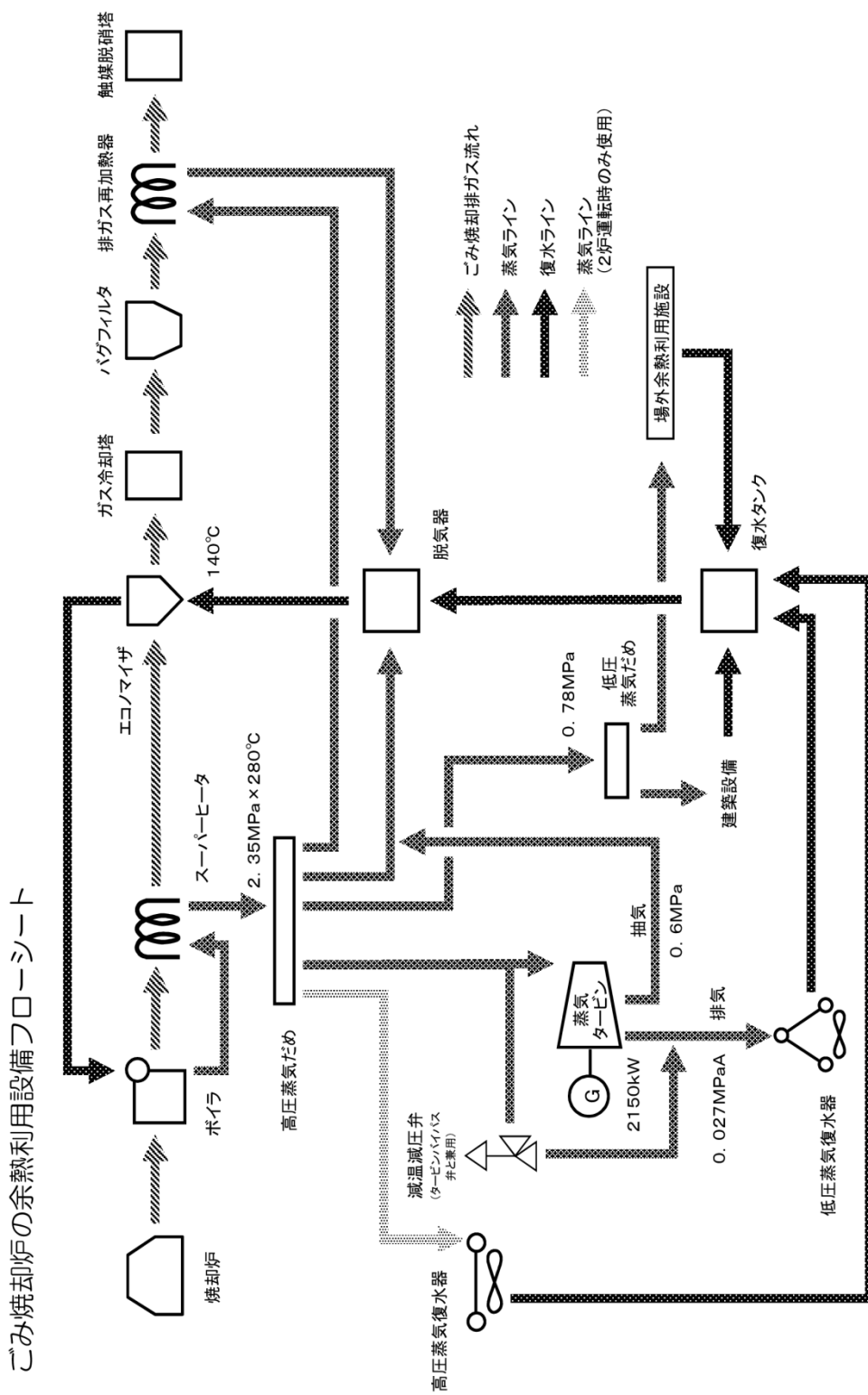
施設の概要 (処理量 120t/24h×2 炉=240t/日)

ごみクレーン：天井走行ポリッ式 (6.3 m³×2基)

廃熱ボイラ：自然循環型単胴水管式（最大19.6t/h×2缶）

煙飛排灰水處理突：內筒銅飯、外筒 R C 製丸型 (59m)
處：セメント固化式 (キレート添加)
理：有機系＝隣接し尿処理施設にて処理
無機系＝凝沈沈殿＋砂ろ過 (25 m³)
電備：抽気復水タービン (2150kW)

【ごみ焼却炉の余熱利用設備フローシート】



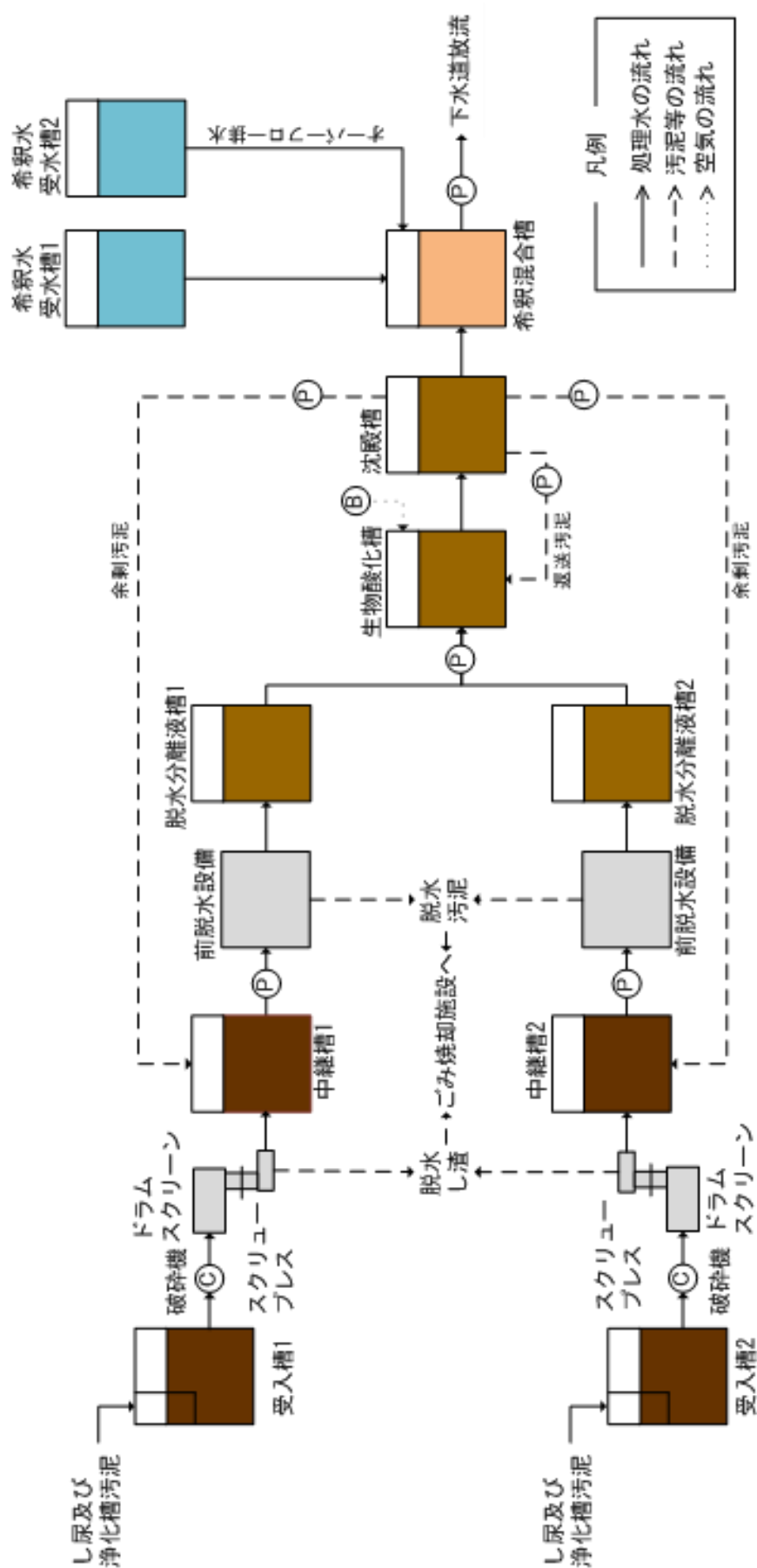
ウ 環境クリーンセンター（し尿処理施設）

処 理 方 式	前処理・前脱水方式＋生物酸化処理方式
処 理 能 力	102kℓ/日(24h)
竣 工 時 期	昭和62年3月25日
工 事 施 工 業 者	久保田鉄工株式会社
改 修 工 事 時 期	平成29年2月24日
改 修 工 事 施 工 業 者	クボタ環境サービス株式会社 中部支店

収集されたし尿及び浄化槽汚泥から、前処理工程（夾雑物除去装置）で、石や砂、ビニールなどを取り除きます。前処理後のし尿と浄化槽汚泥を凝集槽に送り、調質剤などの薬剤を用いて汚泥を肥大化させます。その後、濃縮機、汚泥脱水機で助燃剤の条件となる含水率70%以下まで脱水することにより汚泥を減量化及び助燃剤化し、ごみ焼却施設へ搬出しています。脱水ろ液は生物酸化槽へ送られ、微生物の酸化作用によりBODやCOD、窒素を除去した後、希釈混合槽で希釈水（井戸水＋安城市レジャープールオーバーフロー水）と混ぜて下水道へ放流します。

また、施設で発生する臭気は、場内外への拡散を防止するため、中高濃度臭気は触媒酸化＋活性炭脱臭方法、低濃度臭気は活性炭吸着法とする濃度別に適した方法で処理しています。

【し尿処理施設のしくみフローシート】



エ 榎前町一般廃棄物最終処分場

埋 立 面 積	23,400㎡
埋 立 容 量	80,200㎡
埋 立 開 始	平成5年9月第4期埋立て開始 (平成20年4月再生事業を経て埋立て開始)

オ 資源化センター

施 設 の 概 要	P E T ボトル減容機
処 理 能 力	400～450kg/h
竣 工 時 期	平成12年3月1日 (平成26年8月5日減容機更新)
工 事 施 工 業 者	極東開発工業株式会社

カ せん定枝リサイクルプラント (せん定枝たい肥化施設)

処 理 方 式	破碎、植纖機＋自然発酵
処 理 能 力	4.8t/日
た い 肥 の 量	1,000t/年
竣 工 時 期	平成13年3月29日
工 事 施 工 業 者	神鋼造機株式会社 (機械)、株式会社クサカ (建物主体) 他

(5) 保有車両 (令和6年4月1日現在)

(単位:台)

利 用 別 車 種 別	ご み 収 集	ご み 処 理 (埋立)	ご み 処 理 (プラザ)	ご み 処 理 (センター)	資 源 化 セ ン タ ー	資 源 回 収	プ ラ ン ト	共 通	合 計
プレスパッカー (4t車)			2			6			8
ダンプ (10t車)				1					1
ダンプ (4t車)			1						1
ダンプ (3t車)							1		1
ダンプ (2t車)				1					1
軽四ダンプ (0.35t車)	1			1					2
軽四トラック (0.35t車)	1								1
低床トラック (4t車)						8			8
低床トラック (3t車)						1			1
低床トラック (2t車)						5			5
ブルドーザー		1							1
油圧掘削機		1	1				1		3
乗用車・軽自動車 (連絡車)								5	5
フォークリフト			2	1	1				4
フックロール	1		2						3
ホイールローダ			1				1		2
計	3	2	9	4	1	20	3	5	47